



# 篠五だより

令和6年  
5月31日発行  
江戸川区立  
篠崎第五小学校  
No.3

## 受け継がれていく篠五の伝統

副校長 朽木 良美

いよいよ体育発表会保護者鑑賞日です。どの学年もこれまで一生懸命に練習に取り組んできました。子供たちは、がんばっている姿を保護者の方や地域の方に見ていただくことを楽しみにしています。6年生が発表する『篠五よさこいソーラン』は、昨年度の6年生、その前の6年生と、平成30年から7年間、篠五小の6年生が踊り継いでいるものです。

さて、『よさこいソーラン』ですが、地域の人を元気づけようと始まった高知県の『よさこい祭り』をルーツに、平成4年、よさこい祭りの『鳴子』と北海道の民謡『ソーラン節』をミックスして誕生したものだそうです。祭りの基本ルールは、①手に鳴子を持って踊ること、②曲にソーラン節のフレーズを入れることの2つで、それ以外は、踊り・曲・衣装などはチームの自由になっています。第1回、参加10チーム1,000人、観客動員20万人で始まった祭りは、北海道内はもちろん、日本全国さらには海外にも広がり、今では約270チーム27,000人の参加者が集う祭りへと成長したそうです。[〔YOSAKOIソーラン祭り 公式ホームページ \(yosakoi-soran.jp\)より〕](http://yosakoi-soran.jp)

篠五小でも体育発表会の踊りのみならず、様々な伝統が受け継がれています。6年生は4月に笛掘りを行ったり、5月19日には鹿骨区民館まつりのパレードに参加したりしました。5年生は4月下旬から「田んぼの学習」に取り組み、草取りや代かき、田植えを経験しました。5・6年生ともに、農園での学習は、子供たちの力だけでは難しいところがあります。そのようなときには、保護者の方々にたくさんお力添えをいただいています。保護者の方や地域の方に多くの場面でご協力いただけていることも、篠五小の伝統だとありがたく感じます。

また、篠五小では、「太陽の挨拶」がますます元気に交わされています。2～6年生の子供たちが明るく元気な挨拶をすすんで行う姿を見て、1年生も元気よく挨拶をしています。子供たちが篠五小のよき伝統を受け継ぎ、次の子供たちへとバトンを渡してくれていることを大変うれしく思います。これからも子供たちが篠五小の伝統を大切にしようという心を持ち、しっかりと受け継ぎ、さらに発展させていけるよう、我々教職員も努めていきたいと思っています。



【6年生 体育発表会練習の様子】